

# 平成24年産 菜豆類のインゲンマメゾウムシ対策について

近年、菜豆類（いんげんまめ、べにばないんげん）に対するインゲンマメゾウムシの幼虫食害や成虫混入による被害が増加しています。被害を防ぐため、次の点に注意してください。

## ◎被害軽減対策

- ①餌となる子実が残らないように、播種後に余った種子など不要な子実を速やかに処分し、保管場所の掃除を徹底しましょう。
- ②気温が高いほど成育期間が短くなり被害が拡大するので、収穫した子実は出荷まで、風通しの良い野外の日陰や冷暗所など、可能な限り低温となる場所で保管しましょう。
- ③貯蔵中に発生を観察した場合は、絶対に野外には放置せずに堆肥や土中に埋没するなど、成虫が逃げ出さない方法で処分しましょう。  
羽化した成虫はビニール袋を破り脱出することがあるので、発見した場合は直ちに処分してください。
- ④収穫した子実をやむを得ず翌春まで保管する場合は、厳冬期の野外並の低温となる場所に置くようにしましょう。

※発生が未確認でも①～④の対策を励行し、被害を未然に防止しましょう。

成虫が脱出した穴(約2mm)



写真: 本種成虫と金時に出来た円形の脱出孔

※本種の形態などは、北海道病害虫防除所のホームページをご覧ください。

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>



インゲンマメゾウムシは、栽培中または貯蔵中の菜豆子実の内部にふ化直後の小さな幼虫が侵入する害虫です。本種が侵入しても子実の外観からわかりませんが、内部で発育して羽化した成虫が子実から脱出する際に、直径2mm程度の穴を開けます。道内では成熟期に近い莢上で成虫が産卵していることが確認されています。ふ化した幼虫はすぐに子実へ侵入するため肉眼での発見は気づきにくい害虫です。

◎詳細については最寄りの農業改良普及センターにお問い合わせください。  
北海道農政部 北海道立総合研究機構 ホクレン農業協同組合連合会